

「サイエンスカフェ in 静岡」第119話（2017年10月19日）

テーマ：「海水魚と淡水魚を同じ水槽で飼うためには？」

～浸透圧調整のメカニズムから考える～

講師：日下部 誠（静岡大学理学部創造理学コース）

■ ご記帳者数 （記帳分のみ）

57名（男性：37名 女性：20名）

■ 初めてのご来店者数 11名 複数回の来店者数 46名

■ 職業別ご記帳者数

会社員：13	公務員：2	教員：5	自営業：3
主婦：8	小学生：1	中学生：1	高校生：1
大学生：4	その他：16	不明：3	

■ 年齢別ご記帳者数

19歳以下：3	20代：4	30代：3	40代：9
50代：12	60代：13	70代：9	80代：3
不明：1			

■ 住所別ご記帳者数

葵区：18	駿河区：19	清水区：12	浜松市：1
富士宮市：2	焼津市：1	藤枝市：2	袋井市：1
不明：1			

■ アンケート回収数 34名

■ この企画をどのようにお知りになりましたか。（複数回答有）

継続参加による周知：22	
カフェからの電子メール：0	静大のWebサイト：5
カフェのブログ：1	eしずおかのイベント情報：0
カフェのツイッター：0	ポスター：9
その他（チラシ）：1	

■ ご意見・ご感想（19歳以下）

- 魚の複雑な構造などが分かりやすく説明されていて、難しいところもあったけど、理解することができました。
- 魚はたくさんの種類があることがすごい。話がわかりやすかった。金魚とクマノミを一緒にすると死んでしまうと思ったけど、水をかえるだけで生きることができるとはすごい。
- 分かりやすかったです。

■ ご意見・ご感想（40代）

- むずかしいネタをわかりやすくお話いただきありがとうございました。実際に同じ水槽に金魚と二モが泳いでいるのを見て不思議な感覚でした。
- 日下部先生が、子供のころに抱いたサケへの興味から研究者になられたという境遇がとても興味深かったです（テーマと関係なくてすみません）。息子も何か感じ取ってくれると良いなあ・・・難しすぎたのか、ウトウトしてましたが・・・
- 小学生の国語の教科書にうなぎは海でうまれて・・・がでています。
- 塩類細胞のお話が興味深かった。セシウム、カリウムの吸収、排出が同じトランスポーターで行われるんですね。イオンの大きさがずいぶん違う気がしますが。

■ ご意見・ご感想（50代）

- おもしろかったです。静大オープンキャンパスのときとはまた違った印象を得られました。
- 魚の水槽すばらしい！来月は静大祭ですね。楽しみにしています。たぶん同じところに帰るのは自分が育ったところならある程度の安全が確保できるからなのでしょうね。理由は聞いてはいけなかったか。
- 塩類細胞について詳しくわかってよかった。
- わかりやすく面白かった。クマノミと金魚が一緒にいるのが見られて良かった。海草も 1/3 海水に適応してるのかな・・・魚のエラって小腸のヒダと同じような形になっているんだな～と思いました。

■ ご意見・ご感想（60代）

- 海水魚と淡水魚を共に飼うことができるという水の話は、聞いていたのでしくみを知らなかったが、それほど特別な水ではないということがよくわかりました。新しい情報の詳しい内容が聞けることがよかったです。
- 何故、海水の1/3濃度なのでしょう？研究して下さい。
- サケが生まれた川に戻ると教えていただき、おもしろかったです。浸透圧についてもはるか昔に聞いた話を思い出し、おもしろかったです。ありがとうございました。
- たいへん楽しい講義ありがとうございました。又、研究の成果をお聞きするのが楽しみです。
- 研究への情熱を感じる楽しい講義をありがとうございました。昔、変異原性試験に魚を使っていた学生さんが、イオン強度の違いで飼育と実験に苦労していたのを思い出しました。
- 淡水魚と海水魚が同じところで生きるとは、考えられなかったのですが、実際に見れて納得でした。サケのことを考えると、両方を生きている魚もいるのでそれはどうしてかと疑問にも思わなかったのが残念でなりません。考えてみればほかにも不思議なことがあります。今日はありがとうございました。

■ ご意見・ご感想（70代）

- 非常に解り易い説明でした。
- 興味深い話題をわかりやすく話していただき、ありがとうございました。